

群馬県農業技術センター研究基本計画（案）への意見に対する回答

No.	該当事項	意見	意見に対する考え方（案）	意見の採択により改正する箇所の有無
1	策定の考え方（2ページ）	農業者の減少、高齢化、深刻に考えるべき。2015年37,917人から2025年21,313人と異常に減少している原因を考え、具体策を早急にたてるべき。	群馬県では、農業の担い手を確保・育成するため、就農希望者への相談対応から、就農準備、就農後の経営安定に向けたフォローアップなど、地域の農業者、市町村、関係団体と連携しながら総合的に取り組んでおります。 一方、担い手の減少・高齢化等による労働力不足となるなか、農業の現場では、人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多いことから、省力化、作業負担の軽減、初心者でもできる技術の開発が求められています。 そのため、農業技術センター研究基本計画（案）では、研究の重点目標として「省力化や生産性向上につながるスマート農業技術等の研究開発」を掲げ、いただいた御意見にありますとおり農業者の減少、高齢化に対応するため、人手や労力をかけず生産性を高める技術の開発に取り組んで参ります。	無
2	研究の重点目標・プロジェクト研究（5ページ）	ブランドの確立、スマート農業技術研究開発、温暖化等の気候変動に対応する研究開発、有機農業環境負荷低減・資源循環型農業への転換研究開発と課題が多いが、早急に具体的に案を出して実行すべき。	各重点目標（品種育成・ブランド化、スマート農業・生産性向上、気候変動対策、環境負荷低減・資源循環型農業）ごとに、記載されている主な取組は、現在、すでに取り組んでいる研究課題、あるいは令和8年度以降、新たに取組む研究課題となっております。 また、この他の研究課題にも取り組んでおり、農業技術センターでは研究成果を着実に生産現場で活用いただけるよう、関係機関と協議の上、現場の課題の整理、各重点目標に位置づけた研究計画の策定と実施を進めているところです。 今後も、現場の要望に耳を傾け、研究課題の設定段階から開発技術の社会実装を見据え、生産者の要望に迅速に対応できる技術の開発を目指して取り組んで参ります。	無
3	農業技術センターにおける「群馬県農業農村振興計画2030」の業績評価指標に対する目標値（6ページ）	農業技術センターにおける「群馬県農業農村振興計画2030」の業績評価指標で、スマート農業等生産性向上に関する研究成果数目標年R12件数28より多く38ぐらいに設定すべき。目標は高く。	スマート農業技術については、AI、ロボット、Iotといった先端技術を扱うことから、これらの技術力をもつスタートアップ等民間企業や大学等との連携・共同研究が不可欠になります。 本研究基本計画（案）では、スマート農業等生産性向上に関する研究成果の目標件数が基準年と同レベルでありますが高技術力を持つ企業等との連携・共同研究を進めることで、これまで以上に研究内容の高度化を図り、研究開発を推進して参ります。	無